



○教育テーマ 「みんなでつくる楽しい学校—信頼と挑戦—」

○教育スローガン 「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる」

はじめに

府中市立府中第六小学校は、新校舎での教育活動2年目を迎え、創立70周年の先へと新たな歩みを進める。第3次府中市学校教育プランの基本理念である「全ての子供が、ふるさと府中に誇りをもち、知性や感性を磨き、豊かな人間性を備え、心身ともに健康に成長する」力を育み、本校の歴史と伝統をさらに充実・発展させることを目指す。

新校舎の教育環境、協力的な地域、近隣の浅間山や府中の森公園等の豊かな自然環境、市立美術館等の文化的環境を十分に生かし、府中市立学校のグランドデザインが示す4つの視点「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」を取り入れた教育活動を一層充実させ、児童主体の学びを実現し、次の資質・能力を備えた人材を育成する。

【府中市が育成を目指す人間像】

【人権感覚と規範意識】他者も自分も大切にする、思いやりと規範意識のある人

【社会的な資質・能力】社会の一員としての自覚を持ち、社会に貢献しようとする人

【確かな学力】自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人

教育テーマ「みんなでつくる楽しい学校—信頼と挑戦—」、教育スローガン「目を掛け、声を掛け、心を掛けて育てる」を基に、よさを認め、互いに学び合う教育を推進し、自主・自律の精神を育む。

目と耳と心に向けて話を聴き、落ち着いた学習環境の中で基礎・基本を定着させ、自ら学び成長しようとする学びに向かう力や人間性、生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力など三つの力をバランスよく育成する。また、5・6年生の教科担任制の導入をはじめ、学年の合同授業や交換授業を効果的に行い、学びの質を高める。

同時に、府中版コミュニティ・スクールの仕組みを生かし、学力を底上げする学習支援、安心して学校生活を送るための環境支援を進める。共感的で多面的な児童理解を基に、「きづく」「つながる」「たかめる」教育を全教職員で推進し、質の高い教育内容や多様な人とのかかわり・体験的な学びを工夫し、心豊かに生き生きと学ぶ児童を育成する。

1 府中第六小学校の教育目標

変化の激しいこれからの社会において、自ら学ぶ意欲をもち、人と社会、自然環境等と協調しながら、しなやかに未来を切り拓いていくたくましい児童を育成するため、次のとおり学校の目標と育成を目指す資質・能力を設定する。

☆自分で学べる子（知）

☆は重点目標

生涯にわたって主体的に学び続けることができる子【課題設定・課題対応力】

○仲よく助け合う子（徳）

協力し合ってよりよい社会生活ができる子

【人間関係形成力】

○たくましい子（体）

困難に立ち向かう強い心と体をもつ子

【やりぬく力】

2 学校経営の基本理念

「チーム府中第六小」として、子供たちが生き生きと学び、安心・安全で信頼される学校であり続けるよう、全教職員が主体性と確かな指導力、よさを発揮し、子供の生きる力を育む。

府中版コミュニティ・スクールを生かした保護者、地域との連携・協働体制を進め、地域人材・地域資源を生かした豊かなふれあい、確かな児童理解、どの児童にも「楽しく分かる・できる」指導を行う。学校に関わる様々な人が協力し合い、子供の願いや思いを実現させ、愛着と誇りのもてる学校をつくる。

- 明日が楽しみな学級・学年・学校経営を基盤に、「チーム府中第六小」で地域と共にある学校経営を行う。
- 各主任を中心に自分の役割を実行し、組織貢献力を高め、人材育成と組織力を高める。

3 目指す学校像

府中第六小学校のよりよい校風をつくるのは子供たち自身であることの自覚と自信を育て、学校のよさをたくさん見つけながら、創立70周年のその先へ新たな歴史と伝統をつくる。

「認め合い、高め合い、みんなでつくる 楽しい学校 —信頼と挑戦—」

- 一人一人がよりよい校風を受け継ぎ、誇りに思う学校をつくる
- 互いのよさを認め合い、高め合う、あたたかな人間関係をつくる
- 自ら考え、かかわり合い、チャレンジして、明日が楽しみな学校をつくる

4 目指す教職員像

教職員一人一人が公教育に携わる使命と職責を深く自覚し、児童、保護者、地域からの信頼の向上に努める。また、児童理解と意欲・心情を大切にしながら、受容的で温かいコミュニケーションと指導力の向上に努め、児童一人一人の学びに向かう力や豊かな人間性、基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力等を伸長する。

報告・連絡・相談を適時適切に行い、同僚、保護者、地域と連携・協働しながら、教育内容の向上と学校課題の解決に取り組み、前向きで粘り強く教育活動を推進する教職員集団を形成する。

また、教職員が児童と向き合い、学びの質や学校生活を向上させることができるよう、支援が必要な児童への支援員の配置、デジタル技術の活用、会議の短縮、出退勤管理等により、仕事の効率化を図る。

【府六プライド】

- 明るく、あたたかく、協働し、学び続ける教職員

5 府中第五中学校区で目指す児童・生徒像

就学前教育と小・中学校9年間を通した連携教育活動により、途切れのない滑らかな指導を目指す。

各教科等における系統的な指導とともに、いじめゼロサミットの開催をはじめ、授業規律や児童・生徒による主体的ないじめ防止の取組、不登校の未然防止に向けた連携など生活指導の充実を図る。また、「学力・体力の向上」「道徳性の涵養」「行事への参加」「学校状況の理解」「環境整備の充実」等で地域の方々の協力を得るとともに、小・中学生が地域の市民力となり貢献する教育活動を進め、学校・家庭・地域が一体となって知・徳・体の調和の取れた児童・生徒の育成に努める。

- 自ら学び、考えることができる児童・生徒
- 思いやりの心をもった心身ともに健康な児童・生徒

6 中期的目標及び方策

府中版コミュニティ・スクールの推進（ネットワーク型学校経営）、カリキュラム・マネジメントのP D C Aサイクルを進め、地域人材や地域資源の積極的な活用と児童・学校による地域貢献を図り、次の学校づくりを推進する。

① 確かな力を身に付けさせる学校	② 健やかな体を育む学校	③ 特別支援教育の理念を踏まえ個を伸ばす学校
<ul style="list-style-type: none"> ・高学年における教科担任制の実施、4つの視点を重視した児童主体の分かる授業の工夫 ・校内研究とO J Tの充実による指導力の向上 ・デジタル教材の効果的な活用と家庭学習、補充的学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力や運動への関心・意欲の向上 ・心身の健康や安全に関する意識と生活習慣の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育体制の充実 ・支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施 ・個に応じた指導の充実
④ 豊かな心を育む学校	⑤ 地域とともに子供を育む学校	⑥ つながりのある学校
<ul style="list-style-type: none"> ・自他を大切にし、思いやりのある児童の育成 ・児童によるいじめ防止の主体的な取組、不登校等の未然防止・組織的対応の充実 ・どの子にも分かる、守れる生活ルールへの指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・府中版コミュニティ・スクールを生かした地域連携による取組の推進 ・「ふるさと府中」に誇りをもつ児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園、中学校区の連携強化 ・たてわり班活動による異年齢集団での望ましい人間関係の育成 ・学校生活の積極的な情報発信

7 今年度の取組目標及び方策（☆重点目標）

（1） 確かな力を身に付けさせる学校

① 教科担任制の実施（高学年）、4つの視点を重視した児童主体の分かる授業の工夫（☆重点目標）

高学年の教科担任制、全学年で合同授業、交換授業を推進し、教科指導の専門性を高め、児童の学習意欲や学習理解を向上させる。また、「発見すること」「対話すること」「決定すること」「表現すること」の視点を重視した授業を充実させ、どの児童にも「分かる・できる」喜びを味わわせ、主体的に学習する態度を育てる。

算数科の習熟度別少人数指導をはじめ、個に応じた基礎的・基本的な学習内容を定着させ、個別最適な学びを推進する。

【成果目標】 授業がよく分かるという児童85%以上、「府中市立小・中学校のグランドデザイン」を基に授業改善に取り組んだ教員90%以上

【方 策】 教科担任制の実施（高学年）、学年合同授業・交換授業の推進、主体的・対話的で深い学びの実施、算数科の習熟度別少人数指導・個別最適な学びの推進

② 校内研究とO J Tの充実による指導力の向上（☆重点目標）

校内研究テーマ「自立した学び手の育成—子どもが自分に合った学び方を選べる授業づくり—」を基に、各学年をバランスよく配置した教科部会（国語、算数、社会、体育、専科教科）で研究授業を核とした授業研究と授業観察を推進する。指導教諭の授業参観を含め計画的にO J Tを実施し、児童理解と教員の指導力向上を図る。

【成果目標】 指導力の向上を実感する教員90%以上、校内研究紀要の作成

【方 策】 講師を招へいした研究授業の実施（年4回以上）、校外の授業参観とO J Tの奨励

③ デジタル教材の効果的な活用と家庭学習、補充的学習等の充実

ICT機器を効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。デジタル教材を活用した繰り返し学習や補充的学習、詩の暗唱や読書活動を朝学習や家庭学習と連動させ、基礎・基本の力を定着させる。「家庭学習週間」を設定し、家庭での予習・復習を見直し、学習習慣と学習内容の確実な定着を図る。

【成果目標】学力向上の取組を評価する保護者80%以上

【方 策】デジタル教材の効果的な活用、「詩の暗唱」や読書週間の充実、個に応じた指導の推進、家庭学習週間の設定

(2) 健やかな体を育む学校

① 体力や運動への関心・意欲の向上（☆重点目標）

校庭やアリーナを有効に活用し、体力調査結果を活用した授業改善、「ふちゅうロープチャレンジ」を中心とした体力向上の取組、外遊びの励行により、運動の楽しさを味わわせ、すすんで運動する態度を育む。

【成果目標】進んで運動する児童80%以上

【方 策】体育の授業改善、「ふちゅうロープチャレンジ」を中心とした体力向上の取組、目標を設定して取り組む体力チャレンジ、外遊びの励行

② 心身の健康保持増進に関する意識の向上と生活習慣の向上

熱中症予防対策を一層徹底するとともに、食物アレルギーの対応、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣について意識を高める。東京都教育委員会発行のリーフレット等を活用した「がん教育」、学期ごとに設定する「ノースクリーンデー」などを通して、児童の生活習慣の改善・向上を図る。

【成果目標】生活習慣の定着について評価する保護者80%以上

【方 策】熱中症予防対策の充実、食育の推進、「ノースクリーンデー」による生活習慣の見直し

(3) 特別支援教育の理念を踏まえ個を伸ばす学校

① 特別支援教育体制の充実（☆重点目標）

特別支援教育コーディネーター(2名)を中心に、校内委員会を定期的・効果的に開催し、特別な支援を必要とする児童・保護者への支援方針や、外部相談機関、医療機関への連携・接続等の検討を行い、速やかな支援につなげる。

また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回相談等による専門職の助言や特別支援教育への理解を深める研修を生かし、個の特性に応じた教育活動や課題の改善を図る。

【成果目標】自分のよさを実感する児童85%以上

【方 策】特別支援教育コーディネーターの2名体制、SCやSSW、巡回相談員等の有効活用、校内委員会の効果的な開催、特別支援教育の研修実施

② 支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施

支援が必要な児童への「学校生活支援シート」、「個別指導計画」を作成・活用し、学校と家庭で定期的に目標と手だてを共有しながら、個に応じた指導の充実を図る。エデュケーションアシスタントや学校支援員を適切に配置し、児童の学習や生活の課題改善が円滑に図れるようにする。

【成果目標】支援計画に基づく計画的な特別支援教育に取り組んだ教員90%以上

【方 策】「学校生活支援シート」、「個別指導計画」の作成・活用、学校支援員等の適切な配置

③ 個に応じた指導の充実（☆重点目標）

ユニバーサルデザインによる教育環境の整備や学習面・生活面での手だての工夫を組織的に行い、落ち着いて生活できるよう配慮する。特別支援教室ひばりの指導の充実、学級担任と特別支援教室巡回教員、特別支援教室専門員等と連絡・相談を密に行い、個に応じた指導の充実を図る。

【成果目標】3かけ（目・声・心）を徹底し、児童の変容を実感する教員80%以上

【方 策】学級・学校環境のユニバーサルデザイン化、特別支援教室ひばりの充実、担任・巡回指導教員等の連携強化、特別支援教育の理解・啓発の推進

（4）豊かな心を育む学校

① 自他を大切にし、思いやりのある児童の育成（☆重点目標）

「人権教育プログラム」を基に、進んで気持ちのよい挨拶ができる指導や、教職員自ら全児童の氏名に「さん」を付けて呼ぶ等、温かな言葉遣いを徹底する。子供同士でも、相手を尊重した呼び方や話の聞き方を心がけさせ、自他を尊重する心情と態度を養う。「考え、議論する道徳授業」の充実により、豊かな心情や道徳的判断力・実践力の向上を図る。

【成果目標】あいさつや丁寧な言葉遣いをしている児童85%以上

【方 策】あいさつ習慣の定着と温かな言葉遣いの推進、望ましい学級集団の育成、「考え、議論する道徳授業」の充実

② 児童によるいじめ防止の主体的な取組、不登校等の未然防止・組織的対応の実施（☆重点目標）

「みんなで考え、話し合い、行動するーいじめゼロに向けた取組ー」「府中第六小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめを「自分ごと」として捉えさせ、いじめを生まない、許さない学校づくりを進める。

「いじめ総合対策【子供版】」を活用して、いじめに対する理解を深め、五中校区で「いじめゼロ宣言」「行動目標」を考え、いじめゼロに向けた主体的な行動に取り組みさせる。また、「いじめ防止授業」、「SOSの出し方の授業」、「いじめに関するアンケート」、「心の健康観察」を実施し、教職員、保護者、地域と連携して早期発見・早期対応によるいじめの根絶を図る。

不登校では、市の指標「ステップ」による状況把握を基に保護者・児童と連携し、SSWによる継続的な支援やサポートルームを活用しながら、未然防止と早期解消、きめ細かな登校支援に努める。不登校等の保護者が話しやすい会を設定し、支援のつながりを感じられるようにする。

【成果目標】楽しく学校に通っている児童85%以上

【方 策】「いじめゼロに向けた取組」「府中第六小学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の推進、いじめ防止授業・生命尊重教育の充実、「心の健康観察」、サポートルーム、保護者の会等によるきめ細かな登校支援

③ どの子にも分かる、守れる生活ルールの指導の徹底

「みんなのきまり」を基に教職員全員で統一した指導を行い、週ごとの振り返りや月ごとの重点目標による指導の徹底、毎学期の児童の振り返り等により定着させる。また、情報モラルの指導を計画的に繰り返し行う。

【成果目標】「みんなのきまり」が守れたと感じる児童85%以上

【方 策】チャイム着席・廊下階段歩行・整理整頓・丁寧な清掃指導の充実、生活指導夕会による指導状況の確認と徹底、情報モラルの計画的な指導

(5) 地域とともに子供を育む学校

① 府中版コミュニティ・スクールを生かした地域連携による取組の推進（☆重点目標）

定期的に「スクールコミュニティ協議会」を実施し、地域人材やPTA、おやじの会等との協働によりネットワーク型学校経営システムを構築し、キャリア教育の充実、漢字・算数検定、防災キャンプ、地域懇談会などを実施し、学校の教育力を高める。

【成果目標】保護者・地域との連携による学校経営を評価する保護者85%以上

【方 策】定期的な「スクールコミュニティ協議会」の開催、地域人材やPTA、おやじの会等との協働

② 「ふるさと府中」に誇りをもつ児童の育成（☆重点目標）

地域の自然環境や教育資源等を有効活用し、教科横断的な学習、体験活動、言語活動の一層の充実を図り、自ら課題を見付け、考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決していく資質や能力を育成する。また、地域の人々と関わる機会を数多く設定し、地域貢献しようとする意識と実践意欲を高め、取組を広く発信する。また、10年後も受け継ぎたい六小のよさを児童に考えさせ、児童自身がよさを発揮して行動できるようにする。

【成果目標】六小とまちのよさを知り、愛着をもつ児童80%以上

【方 策】全学年における「ふるさと学習」及びSDGSと関連付けた学習の推進、学校農園を活用した栽培学習、「郷土府中に根ざした道徳資料集」の活用

(6) つながりのある学校

① 幼稚園、保育園、中学校区の連携強化（☆重点目標）

幼稚園や保育園との情報連携や小中連携教育を通して、学習面・生活面で共通の課題の把握や改善のための取組を進める。小中連携教育では、学習・生活指導に関する連携といじめゼロの取組を推進する。学習指導では、教科の円滑な接続やキャリア教育を推進し、学習意欲や学習習慣の定着、社会的自立の基盤となる能力や態度を育てる。

生活指導では、五地区いじめゼロサミット等を通じて、学校・地域をよりよくしようとする意識を高め、規範意識の向上や配慮の必要な児童・生徒が落ち着いて学習活動に取り組める環境整備と指導方法の共通化を図る。

【成果目標】小中連携の取組が進んだと評価する教員80%以上

【方 策】系統的な指導の充実、児童・生徒による交流活動の実施、継続的なキャリア教育、学校行事の連携、生活指導情報の共有と解決策の実施、いじめゼロに向けた取組の推進

② たてわり班活動による異年齢集団での望ましい人間関係の育成（☆重点目標）

定期的なたてわり班活動で「ラララコンサート」「お楽しみ会」「地域清掃活動」を行い、高学年のリーダー性を高め、異年齢集団での望ましい人間関係を育成する。

【成果目標】たてわり班活動による児童の心の成長を実感する教員80%以上

【方 策】たてわり班活動による児童の主体的な遊びや行事の充実

③ 学校生活の積極的な情報発信

学校だより、学年だより（学年の窓）の充実とスマート連絡帳の更なる活用を図り、教育活動の様子を積極的に広報する。学校ホームページの積極的な更新と内容の充実により、学校の指導方針や児童の成長の様子を分かりやすく発信し、保護者・地域との連携強化を図る。

【成果目標】学校生活の様子が分かると感じる保護者85%以上

【方 策】スマート連絡帳の活用、学校ホームページの積極的な情報発信